

平成23年6月の解説（府県天気予報）

【6月の天候状況】

上旬から中旬にかけては、梅雨前線が九州から本州の南岸に停滞しました。また、月の前半は太平洋高気圧が平年より西に強く張り出し、沖縄地方では晴れの日が多くなって、沖縄地方では梅雨の統計を開始した1951年以降、最も早い9日ごろに梅雨明けしました（速報値）。一方、南から暖かく湿った気流が流れ込んだ九州では中旬は大雨の日が続きました。下旬には太平洋高気圧は本州の南で強まり、梅雨前線は日本海から北陸地方、東北地方まで北上して停滞しました。東北地方から北陸地方の所々で大雨となったほか、下旬中頃には台風第5号が先島諸島から東シナ海を北上した影響により西日本太平洋側でも所々で大雨となり、その後も北日本では梅雨前線の影響を受けました。また、東日本より西の地方では暖かく湿った気流の影響を受けて雲が広がりやすくなりましたが、東・西日本の太平洋側では晴れて所々で猛暑となりました。なお、奄美地方は22日ごろ、九州南部地方は28日ごろ梅雨明けしました（いずれも速報値）。

月平均気温は、ほぼ月を通して気温が平年を上回った沖縄・奄美ではかなり高くなりました。また、月のはじめや中旬に気温が平年を下回る時期があった北日本から西日本でも月平均気温は高くなりました。月降水量は、梅雨前線や暖かく湿った気流の影響により、北日本日本海側でかなり多く、西日本でも多くなりました。月間日照時間は、平年に比べて曇りや雨の日が多かった西日本ではかなり少なく、北日本日本海側と東日本太平洋側では少なくなりました。

【6月の検証結果】

17時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は81%と例年値^(注)より1ポイント低く、明後日予報は76%と例年値と同じになりました。

各地方の適中率では、明日予報は沖縄地方で例年値より5ポイント高くなりましたが、北陸地方、近畿地方及び中国地方では4～7ポイント低くなりました。明後日予報は九州南部地方と沖縄地方で7ポイント高くなりましたが、中国地方では12ポイント低くなりました。

明日の最高気温の予報誤差は、ほぼ全国的に例年値より小さく、全国平均は1.8℃でした。最低気温の予報誤差は例年値程度の地方が多く、全国平均は1.2℃でした。

^(注) 例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【8月の天気予報の利用にあたって】

8月は9月と並んで台風による災害の多い月です。1981年～2010年までの30年間の平均では、8月の台風の日本への接近数は3.4個、上陸数は0.9個で、それぞれ年間を通して最も多くなっています。最近10年間では2004年が多く、接近数は6個、上陸数は3個で、暴風や大雨、高潮などによって大きな災害が全国各地で発生しました。台風が日本付近に接近、または通過すると予想されている場合には、最新の台風情報や警報・注意報など気象情報に十分留意して下さい。